

4月26日は世界知的所有権の日

World Intellectual Property Day on April 26

WIPO日本事務所長

大熊 雄治

Yuji OKUMA

Director, WIPO Japan Office

本稿は今年（2018年）4月の話題になりますが、来年4月関連の話題としてお読みいただければ幸いです。さて、「4月18日」は皆様、ご存知のとおり「発明の日」で明治18年（1885）4月18日に専売特許条例が公布された日に由来しています。

それでは、「4月26日」は、何の日かご存じでしょうか？

実は、あまり知られていないようですが、この4月26日は「World Intellectual Property Day¹⁾」（世界知的所有権の日）であり1970年4月26日に「世界知的所有権機関を設立する条約」が発効したことに由来しています。この世界知的所有権の日は、知的財産が日常生活で果たす役割について認識を高め発明家や芸術家による世界中の社会の発展への貢献を記念するために、WIPO加盟国により2000年に制定されたものです。翌2001年の第1回目の世界知的所有権の日にあたり、及川特許庁長官（当時）はイドリス WIPO 事務局長（当時）へ WIPO を中心とした世界中への知的財産制度の普及啓発に協力する、とのレターを送られています²⁾。そして2001年以降、毎年4月26日には記念すべき日として世界各地で記念行事が開催されており、行事には発明（技術）に限らず映画、音楽など創作活動全般に関連するイベントも含まれています。

WIPO は毎年テーマを設定し世界知的所有権の日を祝っています。2015年のテーマは音楽、2016年はデジタル世界の創造性、2017年はイノベーション、そして今年2018年のテーマは「Powering change: Women in innovation and creativity (変革の推進:イノベーションと創造において活躍する女性)」でした。これは2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の17の目標のうちの5番目「ジェンダー平等を実現しよう」とも関連するテーマでもあり、ジュネーブ本部や、各地のIP関連団体、大学など各地で開催されるイベントも今年のテーマに沿ったものでした。WIPO 日本事務所でも、ゲストスピーカーに、還暦を過ぎてパソコンの勉強を始め81歳でスマホのアプリを開発し話題となった若宮正子様など女性クリエイター3名を迎え、World Intellectual Property Day 祝賀レセプションを国連大学で開催し好評を得ました。

さて、WIPO 本部では、今年のテーマに沿って発明における女性の活躍にスポットライトを当てその活躍について統計的に分析しましたので本稿でご紹介します³⁾。これは WIPO が取り扱う PCT 出願を基に、2017年中に公開された PCT 出願の数で上位20カ国にある各企業（ただし出願が一定数以上）

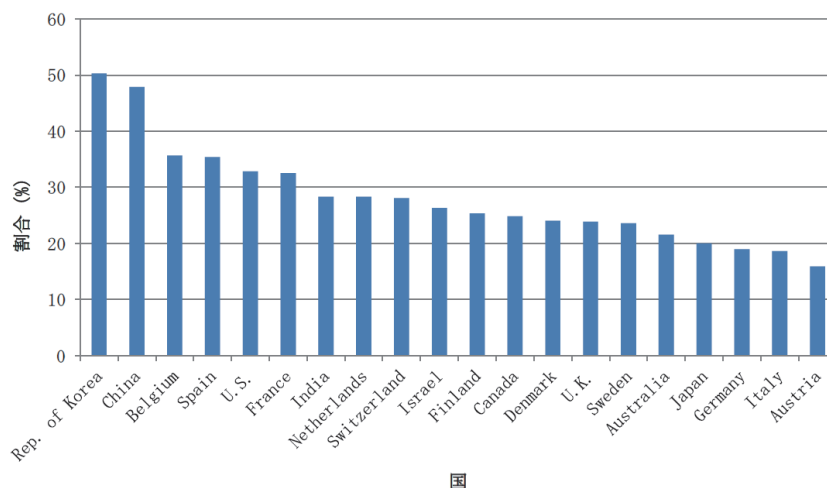
について1つのPCT出願（発明）に参画した発明者の中に少なくとも女性が1人含まれたPCT出願の割合を調べ企業ランキングを作成しました。その上位5社を下に掲載しました（表1）。ベスト5以内には日本企業はランクされていませんが、30位内を見ると17位に日立化成株式会社（42.6%）、20位に花王株式会社（40.4%）が入っていました。

表1：PCT出願に女性発明者が含まれた割合（2017年）（上位20カ国、企業別）

| 企業 | 国 | 割合 |
|---|------|-------|
| LG CHEM, LTD. | 韓国 | 72.5% |
| F. HOFFMANN-LA ROCHE AG | スイス | 69.1% |
| L' OREAL | フランス | 67.3% |
| DOW GLOBAL TECHNOLOGIES INC. | 米国 | 63.3% |
| HENKEL KOMMANDITGESELLSCHAFT AUF AKTIEN | ドイツ | 61.5% |

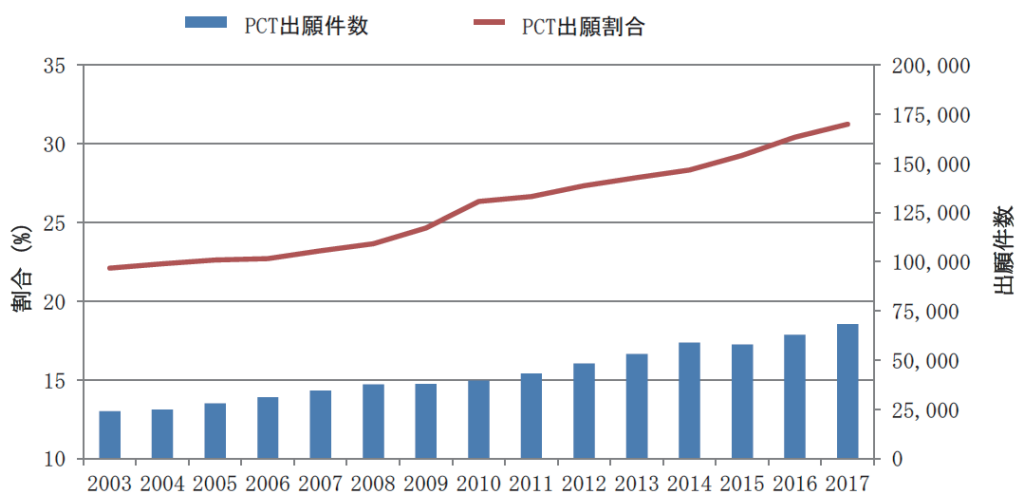
また、下のグラフ1は、同様の条件で2017年出願上位20カ国について国ごとにPCT出願に女性発明者が含まれた割合が大きいほうから並べたランキングです。第1位は韓国(50%)、次いで中国(48%)そして日本は第17位(20%)に入っています。日本からのPCT出願は2017年は世界で第3位と件数では多いのですが、女性発明者割合ランキングでは日本が下位(17位)なのはなぜでしょう？本稿ではグラフを掲載していませんがWIPOによる業種、技術分野ごとの女性発明者割合（PCT出願に女性発明者が含まれた割合）の分析では、バイオ（58%）、創薬・製薬（56%）、有機化学・農薬（55%）などの分野で高く、他方、電気分野、機械部品（14%～25%）では低くなっています。ところが、業種、技術分野ごとの発明の生まれやすさなどの特性上、前者の化学分野では特許出願が少なく後者の電気分野、機械部品の分野からの特許出願が多い傾向があります。このような2つの傾向を前提にさらに、日本からは自動車などの機械分野、電気分野からの出願割合が他の国に比べて多い特徴が重なり、結果的に女性発明者割合が低い出願が多くを占め、日本の順位を押し下げる結果となっていると見ることができます。日本の産業構造に近いドイツは日本の次で18位(19%)であり、筆者がWIPO統計分析部のドイツ人の同僚と話した時にはこの分析の見方で一致をみました。

グラフ1：PCT出願に女性発明者が含まれた割合（2017年）



以上、2017年の企業別ランキング、国別ランキングを紹介しましたが、次に、この分析を長期的に世界規模で見てください。次のグラフ2の折れ線が、2003年（22%）から2017年（31%）の女性発明者が含まれたPCT出願の比率の推移を示します。2017年まで、女性発明者が含まれたPCT出願が着実に連続して右肩上がりで増えていることがわかります。すでによく言われていることではあります。先進国のトレンドとして産業構造の変化、第4次産業革命（IoT、AIの利用）、また日本国内のトレンドとしてワークライフバランスへの意識の高まり、政府レベルでの女性参画への取組（女性が輝く社会づくり、女性活躍に資する働き方改革など）により社会全体として女性参画が進み、それに並行して女性発明者が含まれるPCT出願の比率も次第に50%に近づくと予想されます。

グラフ2：女性発明者が含まれたPCT出願



最後に、本稿をお読みいただいた方々が2019年4月に世界知的所有権の日（4月26日）を思い出し知的財産が日常生活で果たす役割について認識を高め、発明家や芸術家による世界中の社会の発展への貢献をあらためて思い起こしていただければ幸いです。

注)

- 1) <http://www.wipo.int/ip-outreach/en/ipday/> (World IP Day)
- 2) <https://www.jpo.go.jp/seido/rekishi/1304-111.htm> (特許庁ホームページ 世界知的財産の日)
- 3) http://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2018/article_0003.html (統計出典：WIPO Press release 2018)